



日章学園九州国際高等学校校長便り 神無月

建学の精神：道義に徹し、実利を図り、勤労を愛す

学園スローガン： **継続は力なり**

学校教育目標：国際的視野と人間性豊かな心を持ち、自ら学び考え、自己の課題を解決できる生徒を育成する。

令和5年(2023年)10月2日(月) 校長 屋田伸仁



人事と天命



本校の10月の後期開講式は、体育館で合格・安全祈願祭も兼ねて実施されます。10月から、大学受験や就職試験が本格的に始まり、留学生や3年生が全国各地に受験に行くので、道中の安全と合格を祈願します。えびのの菅原神社の神様は学問の神様の菅原道真公です。神主さんがお祓い棒でサーと邪気を振り払う動作をすると、生徒達は妙な顔つきで頭を垂れていました。体育館が厳粛で崇高な空気に包まれました。

皆さん、今日の祈願祭で天の神様にお願いしたので、後は、安心して、受験勉強に集中してがんばってください。天命に任せて、これから人事を尽くしましょう。しかし、本来のことわざは、「人事を尽くして、天命を待つ」です。一生懸命、最後の最後まで、自分の力を出し切ろう。結果、合格か不合格かは、天に任せようという考え方です。

はじめから、天命を頼りにするか、最後で天命に任せるか、天命が先か、人事が先か、どちらの考え方もいいと思います。自分に一番シックリ合うやり方で、がんばればいいのです。留学生も、一般生の3年生も卒業式まで、後5ヶ月です。来年の3月には、目標を達成し、笑顔で卒業しましょう。

三笠の山の月



9月は日本語で、**長月**とも言います。9月は夜が長くなる月だからだそうです。中国では**中秋節**があり、日本は**十五夜**があります。中国は月を見ながら、**月餅**を食べます。日本は**お月見団子**を食べます。

月を見ていると、寮生の皆さんは家族や故郷が恋しくなりませんか？

そこで、百人一首から、望郷を詠った歌をひとつ紹介します。

この歌は、百人一首の中で、唯一外国で詠まれた歌です。

「天の原 ふりさけ見れば 春日なる 三笠の山に 出でし月かも」

(歌意：大空をふり仰いで、はるか遠くを眺めると、今見ている月は、かつて奈良の春日にある三笠山の上に出ていた月と同じ月だなあ。)



作者の**阿倍仲麿**は、17才で遣唐使として中国に留学し、10年の留学生活を終えました。いよいよ帰国という時に、月が美しくのぼったのを見て、胸にこみ上げてくる望郷の思いを歌に詠みました。しかし、この後、いざ帰国の途に着くも、東シナ海の荒れ海で難波し、帰国できませんでした。そして、中国で72才の生涯を終えました。

留学生の皆さんも、夜中に自室の窓から月を見て、望郷の思いに駆られることもあるでしょう。あ～、ふるさとに帰りたいなあ、家族、親戚、友達と会いたいなあと思って、涙が出てくることもあるでしょう。しかし、今は、いくら泣いても、まだ、帰れません。これから始まる大学受験をがんばり、大学に合格することです。親が一番喜ぶのは、皆さんが希望する大学に合格することです。本年度も全員大学合格を達成してください。

一般生の皆さんも、特に3年生は、進路を決めて、大学進学、就職に本気でがんばりましょう。1年生、2年生は、自分はまだ、だいじょうぶだと思っていないませんか。来年、再来年は、あっという間に来ます。今から、高校卒業後の進路について真剣に取り組んでください。

